

北海道南幌高等学校だより



南 高 不 落

校訓 「自主 自律」

北海道南幌高等学校

☎069-0238

南幌町元町3丁目2番1号

TEL:011-378-2248 FAX:011-378-2629

<http://www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp>

■ Weak ties (弱い紐帯) の強み

校長 矢 橋 佳 之

先日、生徒6名と青森県立金木高校の学校祭「金高祭」に参加してきました。

その様子は青森県の東奥日報で報道されました。北海道新聞電子版からも確認いただけます。

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/746384>

訪問の日は、太宰治の生家「斜陽館」とその向かいにある産直メロスを見学しましたが、北海道から私たちが来ることが事前に伝えられており、施設の方に歓迎していただきました。さらに、「金高祭」の最後にサプライズ企画で花火を打ち上げてくれましたが、終了して駅まで急いで移動していた際、近隣住民の方も話しかけてくださるなど、町をあげて歓迎していただいたことに感慨もひとしおでした。

なぜ両校の交流が必要だったのでしょうか。

以前の本紙で「人は人中、木は木中」という言葉を紹介させていただきました。「人は人の中で育つ」のであれば、少しでも豊かな人間関係を提供し、成長を促したいという思いがありました。

今回、金木高校に伺って最初に案内していただいた控室には横断幕がありました。そこには本校生のことを「地域を超えた仲間」と記載されていました。自分には青森県五所川原市金木地区に「地域を超えた仲間」がいるという事実を心に刻んで欲しいと思います。もう二度と会わない薄い関係でかまわない。でも、うっすらつながっている人がいるだけで充分です。「きっと金高生もがんばっている。自分もがんばろう」などと思ってもらえたらステキです。

このような関係を Weak ties (弱い紐帯) といいます。

いつも会う同じ学校(職場)の人、家族だけでなく、どこか違うところ(サードプレイス)にいる普段合わないけれどもうっすらつながっている人の存在というのは、意外と大きなもの

です。

アメリカのスタンフォード大学のマーク・グラノヴェッター博士は社会的つながりが緊密な人より、弱い社会的つながりを持つ人の方が、有益で新規性の高い情報をもたらしてくれる可能性が高いと指摘しており、実証実験で就職先を見つける際の役だった情報の入手経路は16%が会う頻度の高い人、残り84%はたまにしか会わない社会的つながりの弱い人からの情報であり、しかも、社会的つながりの弱い人からの情報で就職した人の方が、満足度が高いことを明らかにしています。

似たような環境にいる人として情報を交換していないと、その常識に縛られてしまいが、違う環境にいる人は違った視点で見た有益な意見をくれるということです。

私自身、他業種の方から「それって本当？」などと突っ込まれて、いかに自分が学校現場のバイアスでものを見ていたかに気付くこともあります。

利害が一致する人だけでなく、利害関係のない人とつながっておくことは社会に出てから、意外と役に立つのです。

さて、卒業式まで登校日数は残り僅かになってきました。残りの行事で生徒に地域の方との Weak ties を増やしていきたいと考えています。第1弾として、12月の大掃除を生徒と一緒にしていただける方を募集します。南幌高校の校舎内を見学できるチャンスです。

お申し込みは本校HP

(www.nanporo.hokkaido-c.ed.jp) をご覧いただくか、次のQRコードからお願いします。



南幌町の良さを再発見！ ～収穫体験を行いました～



9月13日（火）

に農業体験学習の最終になる収穫体験を行いました。今年は南幌町の主産業である農業の作付け、販売、収穫と城地農産さん

をはじめ、多くの方々のご協力により学ぶことができました。また一つ、南幌町の良さとあたたかさを知った体験的な学習でした。関わっていただいた皆様本当にありがとうございました。



おもてなしに感動した！ ～青森県金木町研修旅行～

学校長からの文にも書かれておりますが、10月14日（金）から16日（日）まで青森県金木町への研修旅行に行ってきました。15日（土）には、金木高校の最後の学校祭「金高祭」に参加し、地域を超えた友情を深めてきました。金木町の方々の温かいおもてなしに感動。大切な人との繋がりを感じ、また成長させてくれた青森の3日間でした。



私の一冊

Vol.23 養護教諭
神谷典江

今年度の「私の一冊」は本校図書室蔵書の中からおすすめの本を紹介します。

養護教諭の「現場力」 ～桑原朱美～

ハートマッスルトレーニングジムが考える教育相談は、相談者が「課題について主体的に考えることが出来る対応や整理される対応、気持ちや思い込みに気づき、まなびにかえることができる、レジリエンスをはぐくむ関わり」を脳科学と心理学に基づいたアプローチで、生きる力を高めることを目指しているそうです。

元々は養護教諭を続けていたそうですが、脳科学やコーチング・波動等を学びながら、確立していったようです。法人化されたのは平成28年ですが、10年の間に381件、69000名の指導をしているそうです。

偶然目にしたパンフレットがきっかけで、調べてみましたが、学校教育や社会教育、家庭教育と幅広い活動をしているそうです。

また教材開発も熱心で、興味をそそられるものがたくさんありました。ただ残念なことに、北海道では研修会がほとんど開催されず、教材等を活用していると思われる学校の情報も得られずにいました。何から取りかかっていいのかと思っているうちにコロナの発生・拡大で、ますます遠のいていました。

そんな時「養護教諭の現場力」という本が本校の図書室に購入されたことを、当時の図書担当の先生に教えて頂きました。読んでみると、私が以前から気になっていた保健室での対応に関する姿勢と通じる部分もあり、興味がわきました。養護教諭としてばかりでなく、家庭で子供さんとのコミュニケーションに活用されている先生もいらっしゃるようです。

コロナになってからはzoomの講座も多かったようですが、私自身がWi-Fiの環境やzoomの講座が苦手なこともあり、研修が進んでいません。

もっと早く出会えていたらという思いもありますが、これからもチャンスを見て少しずつ勉強して行けたらと考えています。

